

社会資本総合整備計画

平成29年2月6日

計画の名称	4 折尾駅周辺地区における連続立体交差事業の推進による活力あるまちづくり	重点計画の該当	○
計画の期間	平成26年度～平成30年度(5年間)	交付対象	北九州市
計画の目標	鉄道連続立体交差事業により交通結節点機能を強化することで、北九州市の西部地域の都市拠点として活力あるまちづくりを支援する。		

計画の成果目標(定量的指標)	交通渋滞の解消及び交通結節機能の強化、さらには、北九州市の西部地域の都市拠点として魅力あるまちづくりに向け、区画整理事業と並行しながら、鉄道の立体交差化、街路事業の4車線化及び北口駅前広場の整備を一体的にすることで、快適かつ利便性の高い市民生活を確保することが期待される。
----------------	--

定量的指標の定義及び算定式	定量的指標の現況値及び目標値			備考								
H34年度末の連続立体交差事業完成に向けた事業の進捗率 筑豊本線高架化に伴う踏切除去(H32年度)で、一日あたりの踏切自動車・歩行者交通遮断量が削減される割合	当初現況値	中間目標値	最終目標値	踏切自動車・歩行者等交通遮断量 18,1万人台・時/日(H21当初) 各線の高架化完了年度 H31年度末 筑豊本線高架化・完了 H32年度末 鹿児島本線高架化・完了 H33年度末 短絡線高架化・完了 H34年度末 連立事業完了								
H31年度末、筑豊本線立高架化・完了により始めて効果が発現することから、H34年度末の完成に向けた事業の進捗率 (事業進捗率) = { (Σ年度別事業費) / (全体事業費) }	(H26当初) 進捗率41%	(H28末) (鹿児島本線2次仮線) 進捗率60%	(H30末) 進捗率75%									
筑豊本線高架化に伴う踏切除去(H32年度)で、一日あたりの踏切自動車・歩行者交通遮断量が削減される割合 (削減率) = { 1 - (事業後踏切自動車・歩行者交通量) / (現況踏切自動車・歩行者交通量) }	(H26当初) 181,393人台・時間/日 削減率0%	(H30末) 181,393人台・時間/日 削減率0%	(H32末) 57,646人台・時間/日 削減率68%									
全体事業費	合計 (A+B+C+D)	11,168百万円	A	10,733百万円	B	0百万円	C	435百万円	D	0百万円	効果促進事業費の割合 C / (A+B+C+D)	3.9%

交付対象事業

A 基幹事業															
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (延長・面積等)	市町村名	事業実施期間(年度)					全体事業費 (百万円)	備考
									H26	H27	H28	H29	H30		
4-A1	街路	一般	北九州市	直接	北九州市	折尾駅周辺(JR筑豊本線・鹿児島本線)	鉄道連続立体交差 4.5km	北九州市						10,733	
合計													10,733		

B 関連社会資本整備事業															
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	要素となる事業名	事業内容 (延長・面積等)	市町村名	事業実施期間(年度)					全体事業費 (百万円)	備考
									H26	H27	H28	H29	H30		
合計													0		

番号	一体的に実施することにより期待される効果	備考

C 効果促進事業					直接 間接	事業者	要素となる事業名	事業内容	市町村名 港湾・地区名	事業実施期間 (年度)					全体事業費 (百万円)	備考
番号	事業 種別	地域 種別	交付 対象	H26						H27	H28	H29	H30			
4-C1	街路	一般	北九州市	直接	北九州市	ホーム上屋等景観整備事業	ホーム上屋 防風スクリーン 約3,100㎡ 約340m	北九州市						435		
合計													435			

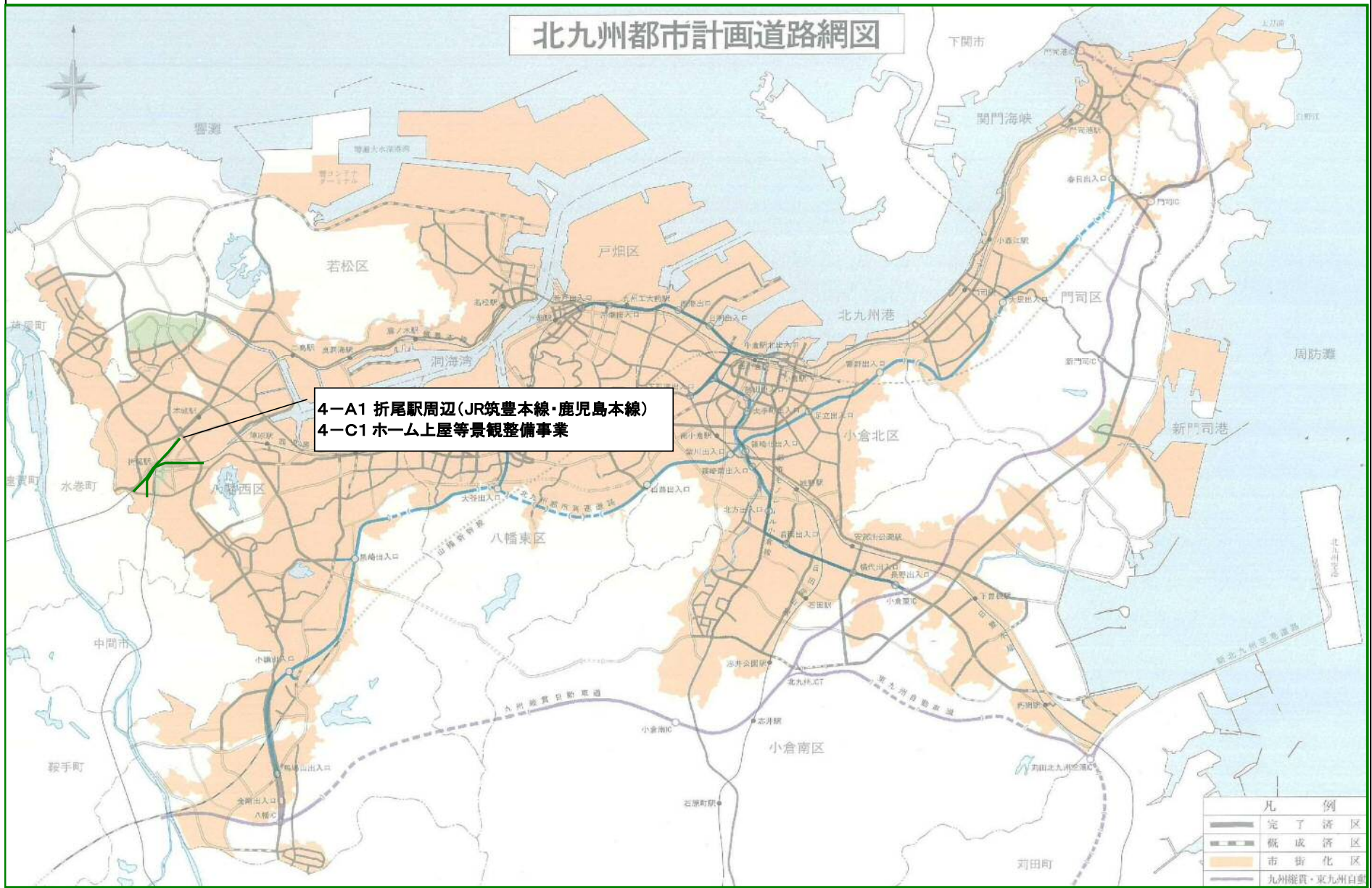
番号	一体的に実施することにより期待される効果														備考
4-C1	景観性や快適性の向上を図り、まちのシンボルやにぎわいの核を創出する。														

D 社会資本整備円滑化地籍整備事業					直接 間接	事業者	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (面積等)	市町村名	事業実施期間 (年度)					全体事業費 (百万円)	備考
番号	事業 種別	地域 種別	交付 対象	H26						H27	H28	H29	H30			
														0		
合計													0			
番号	一体的に実施することにより期待される効果														備考	

	H26	H27	H28	H29	H30
配分額 (a)	616	1,414	4,536	3,025	
計画別流用 増△減額 (b)	132	0	0	226	
交付額 (c=a+b)	748	1,414	4,536	3,251	
前年度からの繰越額 (d)	851	424	36	738	
支払済額 (e)	1,176	1,802	3,834	2,018	
翌年度繰越額 (f)	424	36	738	1,971	
うち未契約繰越額 (g)	356	4	738	1,971	
不用額 (h = c+d-e-f)	0	0	0	0	
未契約繰越+不用率 (h = (g+h)/(c+d))	22.3%	0.2%	16.1%	49.4%	
未契約繰越+不用率が10%を超えている場合その理由	地盤が想定以上に固かったことにより、年度内での工事竣工が困難となったため。		家屋近接箇所における鉄道高架工事において、地元調整に不測の日数を要し、一部工事の着手が困難となったため。	関係機関との調整が難航し、一部工事の着手が困難となったため。	

※ 平成26年度以降の各年度の決算額を記載。
 ※ 平成28年度は、決算額が確定でき次第記載。

計画の名称	4 折尾駅周辺地区における連続立体交差事業の推進による活力あるまちづくり	
計画の期間	平成26年度～平成30年度(5年間)	交付団体 北九州市



社会資本整備総合交付金チェックシート

計画の名称:折尾駅周辺地区の快適性かつ利便性を高め、西部地域の都市拠点として魅力

あるまちづくりを支援する道路整備[折尾地区(JR筑豊本線、鹿児島本線)]

事業主体名:北九州市

チェック欄

I. 目標の妥当性	
①上位計画等との適合等	
1)上位計画等と整合性が確保されている。	○
②地域の課題への対応	
1)地域の課題を踏まえてまちづくりの目標が設定されている。	○
2)まちづくりの必要性という観点から地区の位置づけが高い	○
II. 計画の効果・効率性	
③目標と事業内容の整合性等	
1)目標と指標・数値目標の整合性が確保されている。	○
2)指標・数値目標と事業内容の整合性が確保されている。	○
3)目標及び事業内容と計画区域との整合性が確保されている。	○
4)指標・数値目標が市民にとって分かりやすいものとなっている。	○
④事業の効果	
1)十分な事業効果が確認されている。	○
2)事業連携等による相乗効果・波及効果が得られるものとなっている。	○
III. 計画の実現可能性	
⑤地元の熱意	
1)まちづくりに向けた機運がある。	○
2)住民・民間事業者等と協力して計画を策定している。	○
3)継続的なまちづくりの展開が見込まれる。	○
⑥円滑な事業執行の環境	
1)計画の具体性など、事業の熟度が高い。	○